

公的資金補償金免除繰上償還に係る公営企業経営健全化計画

I 基本的事項

1 事業の概要

特別会計名：

簡易水道事業

事業名	簡易水道事業		
事業開始年月日	昭和32年5月1日	地方公営企業法の適用・非適用	□適用 ■非適用
団体名*		職員数* (H19. 4. 1現在)	1
構成団体名			

注1 事業を実施する団体が一部事務組合等（一部事務組合、広域連合及び企業団をいう。以下同じ。）の場合は、「団体名」欄に一部事務組合等の名称を記載し、「構成団体名」欄にその構成団体名を列記すること。
2 「職員数」欄には、当該事業に従事する全職員数を記載すること。

2 財政指標等

資本費	91.88 (H18)	公営企業債現在高 (百万円)	138 (H18)
累積欠損金 (百万円)	0	利益剰余金又は積立金 (百万円)	0
不良債務 (百万円)	0	財政力指数*	0.174 (H18)
資金不足比率 (%)	0	実質公債費比率* (%)	17.5 (H19)
		経常収支比率* (%)	91.2 (H18)

注 平成17年度（又は平成18年度）の公営企業決算状況調査、地方財政状況調査等の報告数値を記入すること。
なお、財政力指数、実質公債費比率及び経常収支比率は、当該事業の経営主体である地方公共団体の数値を記載し、当該事業が一部事務組合等により経営されている場合は、その構成団体の各数値を加重平均したものを記載すること。（ただし、旧資金運用部資金及び旧簡易生命保険資金について対象としない財政力1.0以上の団体の区分については構成団体の中で最も低い財政力指数を記載すること。）

3 合併市町村等における公営企業の統合等の内容

<input type="checkbox"/> 新法による合併市町村、合併予定市町村における公営企業の統合等の内容 <input type="checkbox"/> 旧法による合併市町村における公営企業の統合等の内容 <input checked="" type="checkbox"/> 該当なし
--

注1 「新法による合併市町村、合併予定市町村」とは、市町村の合併の特例等に関する法律（平成16年法律第59号）第2条第2項に規定する合併市町村及び同条第1項に規定する市町村の合併をしようとする市町村で地方自治法（昭和22年法律第67号）第7条第7項の規定による告示のあったものをいう。

2 「旧法による合併市町村」とは、市町村の合併の特例に関する法律（昭和40年法律第6号）第2条第2項に規定する合併市町村（平成7年4月1日以後に同条第1項に規定する市町村の合併により設置されたものに限る。）をいう。

3 □にレを付けた上で内容を記載すること。

4 公営企業経営健全化計画の基本方針等

区分	内容
計画名	馬路村簡易水道経営健全化計画
計画期間	平成19年度～平成23年度
計画策定責任者	馬路村長 上治 堂司
既存計画との関係	馬路村行政改革プラン（平成17年度～平成21年度）
公表の方法等	馬路村ホームページ。議会には、予算説明時に議会への説明を行う。
基本方針	馬路村行政改革プランに基づきながら、さらに経営健全化に向けての取り組みを行っていく。給水人口が減少傾向にあるため、本村においては使用料の未収もなく、使用料改定以外に料金収入の増加が望めない状況下のため、事業においてコスト意識を常に持ち、経営の点検を毎年度行いながら健全化に取り組んでいく。

注 計画期間については、原則として平成19年度から23年度までの5か年とすること。

I 基本的事項（つづき）

5 繰上償還希望額等

（単位：百万円）

区 分		年利5%以上6%未満	年利6%以上7%未満	年利7%以上	合 計
旧資金運用部資金	繰上償還希望額	—	—	8	8
	補償金免除額	—	—	1	1
旧簡易生命保険資金	繰上償還希望額	—	—	—	—
公営企業金融公庫資金	繰上償還希望額	—	—	—	—

注 「旧資金運用部資金」の「補償金免除額」欄は、各地方公共団体の「繰上償還希望額」欄の額に対応する額として、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額であり、各地方公共団体の所在地を管轄とする財務省財務局・財務事務所に予め相談・調整の上、確認した補償金免除（見込）額を記入すること。

6 平成19年度末における年利5%以上の地方債現在高の状況

【旧資金運用部資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度末残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公営企業債	簡易水道事業	—	—	8,474	8,474
合 計 (A)		—	—	8,474	8,474
※上記のうち 一般会計負担分 (再掲)	簡易水道事業	—	—	—	—
合 計 (B)		—	—	—	—
公営企業で負担するもの (A)-(B)		—	—	8,474	8,474

【旧簡易生命保険資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成21年度末残高)	年利6%以上7%未満 (平成21年度末残高)	年利7%以上 (平成20年度9月期残高)	合 計
公営企業債					
合 計 (A)					
※上記のうち 一般会計負担分 (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

【公営企業金融公庫資金】

（単位：千円）

事業債名		年利5%以上6%未満 (平成20年度9月期残高)	年利6%以上7%未満 (平成20年度9月期残高)	年利7%以上 (平成19年度末残高)	合 計
公営企業債					
合 計 (A)					
※上記のうち 一般会計負担分 (再掲)					
合 計 (B)					
公営企業で負担するもの (A)-(B)					

注1 地方債計画の区分ごとに記入すること。

2 必要に応じて行を追加して記入すること。

II 財務状況の分析

区 分	内 容
財務上の特徴	<p>馬路村簡易水道事業は、3地区の簡易水道施設で行っている。給水人口はH14年度1,194人からH15年度1,187人、H16年度1,146人、H17年度1,112人、平成18年度1,106人と年々減少している。使用料については、H16年に改定を行い（料金改定率23.1%）、基本料金600円/月を800円/月に、超過料金を60円/m³を90円/m³とし、料金収入において5,000千円ほどの増額となった。職員は1名であり、人事異動により人件費が大きく変動するため、給水原価は統計を出すのが難しいが、H15年度140.14円、H16年度159.36円、H17年度168.30円、H18年度193.47円である。供給単価はH16年度料金改定までは70円台を推移していたが、料金改定後はH18年度97.38円と100円前後となっている。</p>
経営課題	<p>課題① 維持管理費等サービス供給コストの削減合理化 維持管理費は、配水管の老朽化から漏水が発生し費用が上昇傾向にある。</p>
	<p>課題② 料金水準の適正化 給水人口の減少に伴い、料金収入も減少している。</p>
	<p>課題③ 民間的経営手法等の導入 職員1名で対応しているが、検針や納付書送付業務等において時間を要している。</p>
	<p>課題④ 資本投下の抑制 取水堤、導水管、ろ過池、配水管等設置後30年を超える施設が出てきた。</p>
	<p>課題⑤</p>
留意事項	

注1 「財務上の特徴」欄は、事業環境や地域特性等を踏まえて記載すること。また、経営指標等について経年推移や類似団体との水準比較などを行い、各自工夫の上説明すること。

2 「経営課題」欄は、料金水準の適正化、資産の有効活用、給与水準・定員管理の適正合理化、維持管理費等サービス供給コストの削減合理化、資本投下の抑制、民間的経営手法等の導入等、団体が認識する経営上の課題について、優先度の高いものから順に記載する。また、経営課題と認識する理由を類似団体等との比較を交えながら具体的に説明すること。

3 「留意事項」欄は、「経営課題」で取り上げた項目の他に、経営に当たって補足すべき事項を記載すること。

4 必要に応じて行を追加して記入すること。

(単位:百万円, %)

区分	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画前年度) (決算見込)	平成20年度 (計画前2年度)	平成21年度 (計画前3年度)	平成22年度 (計画前4年度)	平成23年度 (計画前5年度)
収支再差引 (E)+(I) (J)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
積立金 (K)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前年度からの繰越金 (L)	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
前年度繰上充用金 (M)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形式収支 (J)-(K)+(L)-(M) (N)	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
翌年度へ繰り越すべき財源 (O)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実質収支 (P)	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0
(N)-(O) 赤字 (Q)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤字比率 ($\frac{(Q)}{(B)-(C)} \times 100$)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収益的収支比率 ($\frac{(A)}{(D)+(H)} \times 100$)	76	68	70	70	71	54	77	68	74	75
地方財政法施行令第20条第1項により算定した 資金の不 足額 (R)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
営業収益 - 受託工事収益 (B)-(C) (S)	12	11	16	15	14	14	14	15	15	15
資金不足比率 ((R)/(S)×100)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
積立金 現在 高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
企業債 現在 高	168	161	154	146	138	129	120	114	240	310
うち建設改良費・準建設改良費に係るもの	168	161	154	146	134					
うちその他に係るもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 他会計繰入金

区分	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前々年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画前年度) (決算見込)	平成20年度 (計画前2年度)	平成21年度 (計画前3年度)	平成22年度 (計画前4年度)	平成23年度 (計画前5年度)
収益的収支分	4	4	1	2	6	5	9	1	5	6
うち基準内繰入金	3	3	1	2	3	3	3	1	3	4
うち基準外繰入金	1	1	0	0	3	2	6	0	2	2
うち料金収入に計上すべき繰入等	0	0	0	0	0					
うち赤字補てんのなもの	0	0	0	0	0					
資本的収支分	9	9	9	12	10	18	9	9	9	12
うち基準内繰入金	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4
うち基準外繰入金	6	5	5	8	6	14	5	5	5	8
うち赤字補てんのなもの	0	0	0	0	0					

(単位:百万円)

(3) 経営指標等

(単位:%)

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前2年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画初年度) (計画前年度)	平成20年度 (計画第2年度) (計画前年度)	平成21年度 (計画第3年度) (計画前年度)	平成22年度 (計画第4年度) (計画前年度)	平成23年度 (計画第5年度) (計画前年度)
資金不足比率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
料金回収率*	76	72	80	83	67	74	54	85	73	73
総収支比率(法適用)										
経常収支比率(法適用)										
営業収支比率(法適用)										
累積欠損金比率(法適用)										
収益的収支比率(法非適用)	76	68	70	70	71	54	77	68	74	75
不良債務比率(法適用)又は赤字比率(法非適用)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収益的収入分	27	27	9	15	30	26	39	7	25	29
うち基準内繰入金	21	20	9	15	13	16	13	7	15	19
うち基準外繰入金	6	7	0	0	17	10	26	0	10	10
うち料金収入に計上すべき繰入等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち赤字補てん的なもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
資本的収入分	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
うち基準内繰入金	34	42	42	36	40	22	44	44	44	33
うち基準外繰入金	66	58	58	64	60	78	56	56	56	67
うち赤字補てん的なもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1 上記の各指標の算出方法については、次のとおりであること。

- (1) 資金不足比率 (%) = 地方公営企業法適用企業の場合 = 地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100
- ア 地方公営企業法非適用企業の場合 = 地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100
- イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = 地方財政法施行令第20条第1項により算定した資金の不足額 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100
- (2) 総収支比率 (%) = 総収益 / 総費用 × 100
- (3) 経常収支比率 (%) = 経常収益 / 経常費用 × 100
- (4) 営業収支比率 (%) = (営業収益 - 受託工事収益) / (営業費用 - 受託工事費用) × 100
- (5) 累積欠損金比率 (%) = 累積欠損金 / (総費用 + 地方償還金) × 100
- (6) 収益的収支比率 (%) = 総収益 / (総費用 - 地方償還金) × 100
- (7) 不良債務比率(又は赤字比率) (%) = 不良債務(又は実質赤字額) / (営業収益 - 受託工事収益) × 100
- (8) 繰入金比率 (%) = 収益的収入に属する他会計繰入金(又は資本的収入に属する他会計繰入金) / 収益的収入(又は資本的収入) × 100

2 上記指標のうち「料金回収率」は、水道事業(簡易水道事業を含む)、工業用水道事業及び下水道事業(下水道事業(下水道事業にあっては使用料回収率)について記載すること。

(1) 水道事業、工業用水道事業に係る料金回収率の算出方法

・ 料金回収率 (%) = 供給単価 / (給水原価 × 2) × 100

※1 供給単価 (円/m³) = 給水収益 / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)

※2 給水原価 (円/m³) = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金(水道事業のみ))) / 年間総有収水量(工業用水道事業にあっては料金算定に係るもの)

但し、簡易水道事業については下記によるものとする。

ア 地方公営企業法適用企業の場合 = (経常費用 - (受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費 + 基準内繰入金 + 減価償却費) + 企業償還金) / 年間総有収水量

イ 地方公営企業法非適用企業の場合 = (総費用 - (総費用 - (受託工事費 + 基準内繰入金) + 地方償還金) / 年間総有収水量

(2) 下水道事業に係る使用料回収率の算出方法

・ 使用料回収率 (%) = 使用料収入 / 汚水処理費 × 100

(4) 収支見通し策定の前提条件

案件項目	収支見通し策定に当たっての考え方（前提条件）
1 料金設定の考え方、料金収入の見込み	平成16年度の料金改定により料金収入は5,000千円ほど増加したが、給水人口の減また、節水等による有収水量の減により料金収入は減少している。平成22年に超過料金の見直しを行い料金収入の増とする。
2 他会計繰入金の見込み	収益的収支の営業収益との差額、資本的収支の建設改良費及び地方債償還金は一般会計繰入金とした。
3 大規模投資の有無、資産売却等による収入の見込み	平成22年度より、取水堤、導水管、ろ過池、配水管等設置後30年を超える施設の改修を計画した。
4 その他収支見通し策定に当たって前提としたもの	職員は1名体制で人事異動がないものとしている。

- 注1 収支見通しを策定するに当たって、前提として用いた各種仮定（前提条件）について、各区分に従い、それぞれその具体的な考え方を記入すること。
 2 必要に応じて行を追加して記入すること。

IV 経営健全化に関する施策

項目	具体的内容
<p>1 行革推進法を上回る職員数の純減や人件費の総額の削減</p>	<p>(Ⅱ表課題③)職員は1名であるため人事異動による人件費の変動はあるが、今回は異動がないものとしている。検針の手法、納付書の作成をマニユアル化し職員の負担を軽減し、経費を要する職としないようにしながら、人事異動による人件費の減を目指していく。</p>
<p>○ 地方公務員の職員数の純減の状況</p>	<p>1名体制とする。</p>
<p>○ 給与のあり方</p>	<p>一般職と同じとする(国と同じ)</p>
<p>◇ 国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与構造の見直し、地域手当のあり方</p>	<p>"</p>
<p>◇ 技能労務職員に相当する職種に従事する職員等の給与のあり方</p>	<p>"</p>
<p>◇ 退職時昇等退職手当のあり方</p>	<p>"</p>
<p>◇ 福利厚生専業のあり方</p>	<p>"</p>
<p>2 物件費の削減、指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用等</p>	<p>(Ⅱ表課題③)現在の検針手法や納付書作成業務の見直しを行い、物件費の削減を目指す。</p>
<p>○ 維持管理費等の縮減その他経営効率化に向けた取組</p>	<p>(Ⅱ表課題①)水道というライフラインであるため、施設の老朽化に対応する改修はどうしても必要である。改修を行うことにより、安定した供給体制と同時に維持管理費も削減を行うことが可能となり、施設管理の民間委託も可能としていく。</p>
<p>○ 指定管理者制度の活用等民間委託の推進やPFIの活用</p>	<p>(Ⅱ表課題③)現在の老朽化した古い施設では指定管理者制度において費用が多額になる可能性があり、施設改修により民間委託や指定管理者制度の導入を図っていく。</p>

IV 経営健全化に関する施策（つづき）

項目	具体的内容
<p>3 コスト等に見合った適正な料金水準への引上げ、売却可能資産の処分等による歳入の確保</p> <p>○ 料金水準が著しく低い団体において、コスト等に見合った適正な料金水準への引き上げに向けた取組</p>	<p>(Ⅱ表課題②)平成16年度の料金改定により料金収入は5,000千円ほど増加したが、給水人口の減また、節水等による有収水量の減により料金収入は減少している。平成22年に超過料金の見直しを行い料金収入の増とする。</p>
<p>4 経営健全化や財務状況に関する情報公開の推進と行政評価の導入</p> <p>○ 経営健全化や財務状況に関する情報公開</p>	<p>経営健全化計画は村ホームページにより開示する。財務状況、定員管理の状況、給与情報の公開は普通会計と同時に村ホームページで公開していく。</p>
<p>○ 経営健全化や財務状況に関する情報公開</p>	<p>同上</p>
<p>○ 行政評価の導入</p>	<p>平成22年度導入予定である。</p>
<p>5 その他</p>	

注1 上記区分に応じ、「Ⅱ 財務状況の分析」の「経営課題」に掲げた各課題に対応する施策を具体的に記入すること。その際、どの課題に対応する施策が明らかとなるよう、Ⅱに付した課題番号を引用しつつ、記入すること。

2 上記に記入した各種施策のうち、当該取組の効果として改善額の算出が可能な項目については、「Ⅴ 繰上償還に伴う経営改革効果」の「年度別目標等」にその改善額を記入すること。なお、当該改善額が対前年度との比較により算出できない項目（資産売却収入・工事コスト縮減など）については、当該改善額の算出方法も併せて上記各欄に記入すること。

3 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 線上償還に伴う経営改革促進効果
1 主な課題と取組み及び目標

取組み及び目標	
1	経営効率化や料金適正化による繰越欠損金の解消等 現在超過使用料は、10㎡/月以上からあり90円/㎡であるが、平成22年度より20㎡/月以上からは120円/㎡とする。(IV-3)

注1 上記各項目には、IIで採り上げた経営課題に対応する取組としてIVに掲げた経営健全化に関する施策のうち、それぞれ各項目に該当するものについて、その対応関係が分かるように記入すること。
2 必要に応じて行を追加して記入すること。

2 年度別目標等 ※ 次頁以下(1)から(5)までの各事業別様式を参考に、以下の考え方に沿って策定すること。
(各事業共通留意事項)

1. 次頁以下の各事業別様式は、「年度別目標」を策定するに当たって参考となるよう例示的な様式を示したものであり、2に掲げた項目以外は必ずしも全ての項目に記入を要するものではなく、各団体の各事業の状況にあわせて記入可能な項目のみ記入し又は独自の取組に応じた項目を立てて記入することは差し支えないものであること。
2. 各事業別様式は参考例示ではあるが、各様式中の「目標又は実績」欄の項目のうち、職員数、行政管理経費(人件費、物件費、維持補修費等)に該当する項目並びに累積欠損金比率及び企業債現在高は、年度別目標策定に際して必須項目とされているので漏れがないよう留意すること。なお、これらの項目のうち、職員数、行政管理経費については、各団体(事業)の取組状況に応じて、適宜、細分化(例:職員数→職種別に区分、正職員と臨時職員とを分離計上等)することは差し支えないこと。
3. 「目標又は実績」欄の項目中、「職員数」については、前年度との比較によりその増減数を各年度の「増減数」欄に計上するとともに、計画期間中の「増減数」の合計は「計画合計」欄に計上し、計画前5年間の「増減数」の合計は「計画前5年間実績」欄に計上すること。
4. 「目標又は実績」欄の項目の見直し施策実施に係る「改善額」は、原則として、当該見直し施策実施年度の前年度との比較により算出し、その改善効果がその後も継続するものとして、その後の各年度の改善額を計上すること。
5. 4による「改善額」が対前年度との比較により算出できな項目、その改善効果が単年度に限られる項目(資産売却益、工事コスト縮減等)については、当該改善額のみ当該見直し施策の実施年度の「改善額」欄に計上すること。またその場合の改善額の算出方法については、IVの当該施策に係る「具体的内容」欄に併せて記入すること。
6. 計画期間中に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画合計」欄に計上すること。また、計画前5年間に実施した見直し施策に係る「改善額」の合計については「計画前5年間実績」欄に計上すること。
7. 「改善額 合計」欄及び「計画前5年間改善額 合計」欄には、それぞれの期間に係る人件費(退職手当以外の職員給与費)その他改善額を計上することが可能なものの合計(「計画合計」及び「計画前5年間実績」それぞれ別の合計)を記入すること。その際、同一項目に係る内訳に相当するものを重複計上することのないよう留意すること。
8. 「(参考) 補償金免除額」欄に記入する「補償金免除額」とは、計画提出前の一定基準日の金利動向に応じて算出された予定額(補償金免除(見込)額)であり、Iの「5 線上償還希望額等」に記入した「旧資金運用部資金」の「線上償還希望額」に対応する「補償金免除額」の「合計」欄の額を転記すること。
9. 以上の他、各事業別様式において、記入を求められている経営指標その他の項目等については各事業別様式の指示(留意事項)に従うこと。
10. 必要に応じて行を追加して記入すること。

V 線上償還に伴う経営改革促進効果(つづき)

2 年度別目標等

(1) 水道事業

① 年度別目標

(単位:百万円、%)

課題	目標又は実績	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前2年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	計画前5年間 実績	平成19年度 (計画前年度) (計画前年度)	平成20年度 (計画前2年度) (計画前2年度)	平成21年度 (計画前3年度) (計画前3年度)	平成22年度 (計画前4年度) (計画前4年度)	平成23年度 (計画前5年度) (計画前5年度)	計画合計
【収入の確保】													
1	料金改定率	0	0	23.1	0	0	15	0	0	0	10	0	0
	改定率(料金の増正比)※1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	未収金の回収対策	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	改定率	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般貸付員負担金の額												
	一般貸付員負担金の償還率												
	資産の有効活用												
	改定率(収入増額)												
	その他()												
	改定率												
【経費の削減】													
	職員給与費の適正化												
	職員給与費(退職手当以外)												
	改定率												
	給与水準												
	改定率												
	その他()												
	改定率												
	職員給与費(退職手当)												
	職員数(A)	1	1	1	1	1	15	1	1	1	1	1	1
	削減率(B)												
	維持管理費等												
	改定率(適正化)												
	工事コスト※2												
	改定率(削減)												
	その他()												
	改定率												
	県費交付金比率												
	企業債残存率	168	161	154	146	138	15	129	120	114	240	310	2
	計画前5年間改定率 合計												
	改善率												
	改善率(参考) 補償金増減額												

注: 「課題」欄については、「1」主な課題と取組み及び目標の「課題」欄の番号を記入すること。
 2 ※1「改定率(料金の増正比)」については、「料金改定に伴う料金増収額」を記入すること。
 ※2「工事コスト」については、工事の原価と工事による建設コストの削減(建設費削減)の抑制は除く。)を記入すること。
 3 改定率の算出方法については、平均削減率に換算した「削減率」欄に併せて記入すること。
 4 必要に応じて付を添えて記入すること。また、会計年度により必要に応じて単位を百万円から千円に改定することも可とするが、「改定率合計」を算出する際の単位統一、原価上(簿籍計上)がいないよう留意すること。

② 経営状況

	平成14年度 (計画前5年度) (決算)	平成15年度 (計画前4年度) (決算)	平成16年度 (計画前3年度) (決算)	平成17年度 (計画前2年度) (決算)	平成18年度 (計画前年度) (決算見込)	平成19年度 (計画前年度) (計画前年度)	平成20年度 (計画前2年度) (計画前2年度)	平成21年度 (計画前3年度) (計画前3年度)	平成22年度 (計画前4年度) (計画前4年度)	平成23年度 (計画前5年度) (計画前5年度)
給水人口 (千人)	1,194	1,187	1,146	1,112	1,106	1,100	1,005	1,000	995	990
年間総浄水収水量 (千m ³)	162	162	149	149	146	143	140	137	134	131
公称施設能力 (m ³ /日)	552	552	552	552	552	552	552	552	552	552
1日最大配水量 (m ³ /日)	689	673	659	637	347	400	400	400	400	400
最大稼働率 (%)								8		
供給単価 (円/m ³)	71.18	70.47	99.94	100.23	97.38	97.00	100.00	100.00	100.00	100.00
給水原価 (円/m ³)	133.36	140.14	159.36	168.30	193.47	190.00	190.00	190.00	190.00	190.00

③ 簡易水道事業の統合に係る基本方針

注 「統合計画の概要・実施スケジュール」又は少なくとも「経営体制・実施スケジュール、換給をとりまとめる時期」を具体的に記載すること。

平成20年度に統合計画を作成する。